

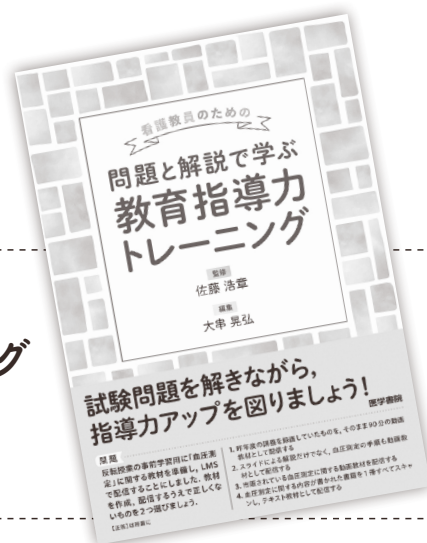
Book Review

評者：山内豊明 放送大学大学院教授／名古屋大学名誉教授

看護教員のための 問題と解説で学ぶ教育指導力トレーニング

監修：佐藤浩章、編集：大串晃弘／発行：医学書院

定価：2640円（本体2400円＋税10%）



「3」 教育の質を構成する「評価力」「設計力」そして「指導力」

「3」という数字には不思議な力があるように感じています。3本の矢、三すくみの関係、論理的なパラグラフライティングの際の「序論・本論・結論」、芸事を学ぶ際の「守破離」などなど。単独でもなく、相対し続けることでもない「3」、不思議な数字です。

基礎教育では「守破離」に相当する場面は少なくないでしょう。しかし、こうも考えられます。「学ぶ」は「まねぶ」から派生した言葉であり、まずは「雛形」が必要です。基本の「形」がなければ「形無し」ですが、いつまでもそれに縛られず、いずれ「型破り」と発展すべしという思いは教える者・学ぶ者の両者にあることでしょう。そのことからしても基礎教育というものは、いずれ「破」られる宿命にある「形」を提供し、「離」への道筋を示す役割があると思っています。

医療の質を構成する「3つ」の側面がドナベディアンによって提唱されています。構造（ストラクチャー）・過程（プロセス）・成果（アウトカム）です。これは医療にかかわらず、質をとらえる場合に普遍的なものです。教育でいえば、どのようなカリキュラムを立て、どのように教育し、その成果をどう測るか、に相当します。とするならば、本書で取り上げられた「教育指導」は過程に相当し、先に刊行されている姉妹書の「教育設計」は構造に、「教育評価」は成果に、それぞれ対応するものと思われます。すなわち今回『教育指導力ト

レーニング』が刊行されたことは教育の質を構成する「3側面」が整ったことになり、その意義・価値は非常に大きいと考えます。

本書は姉妹書である『教育評価力トレーニング』『教育設計力トレーニング』と同様に「3部構成」になっています。Ⅰ部では教育指導力の必要性とメリットを学び、Ⅱ部で教育指導に関する基礎的な用語と基礎知識をおさえ、最後のⅢ部で講義、演習、実習、卒業研究に関する実務的な場面を想定して学びます。あたかも「3段階飛び競技」の【ホップ】【ステップ】【ジャンプ】のようなものであり、すでに順調に走り出している教育経験豊富な者には【ステップ】から臨み、見事な【ジャンプ】と仕上げていくこともよいでしょう。教育経験がまだ多くない場合や助走に不安を覚えるようならば、落ち着いて適切な【ホップ】から、あるいは適宜【ホップ】を振り返りながら取り組むとよいでしょう。

本書ならびに姉妹書に共通する特徴は、問題集形式を用いていることです。これによって一方向的な知識の伝達ではなく、読者に考える機会を提供し、著者・読者間の双方向の対話が成り立つようになっています。それからしても書籍によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）が可能になったと言えます。その意味でも本書ならびに本シリーズの完成の意義は大きなものであると思われます。